

庄司勝藏さん（白石）



地区の老人会長なども務めていた避難前は、水稲やキャベツの生産に取り組んでいました。避難先でも畑をやり、帰村した今も自家用の野菜を作っています。

震災の前は、主にキャベツをつくっていた。夜明けとともに収穫を始めて、福島市の市場に、朝の6時40分までに運んでいたんだ。市場通いは、随分やったよ。自分の小遣い稼ぎにもなったしね。

3年位は続けたんだ。ただそこで、仕事はやめなくてはならなくなった。震災前は、息子夫婦と孫と暮らしていたが、村には俺と家内のフミの2人で帰ってきた。避難して伊達にも家が建つたし、孫も結婚したり、就職したりしたからね。

村のサポートセンターにはまだ一度も行っていないが、今日は「健康いちばん！の集い」に参加した。たまには来てみつぶと思つてな。こうして見ると、ほとんど知っている人だ。にぎやかで、いろいろな人と話せて、いいことだな。

心も自分も大切に。

村民の皆さんからの相談に、堀先生がお答えします

おしえてくんちえ！堀先生

相談 「新年の抱負」を叶えられるコツを教えてください！

新年のご挨拶を申し上げます。早速ですが皆さん、1年後に自分がどうなりたいかを、想像できますか？「これ位ならなれる」という控えめな姿ではなくて、「こういう素敵な自分になりたい」と思える姿です。今より勉強して賢くなっている姿でも、仕事がうまくいっている姿でも、他の人に優しくしている姿でも、何でも結構です。

その姿が思い浮かんだら、1年後にそれを実現するために、今日必要なことを考えて、実行してください。

それを1年続けたらどうなっているのでしょうか？今年一年が、皆様にとって良い年でありますように。



精神科医 堀有伸先生
ほりメンタルクリニック院長

「心の健康相談」お問い合わせは 健康福祉課健康係（いちばん館内）☎0244-42-1638まで

こころのぽけっと

「あたりまえ」に感謝の心を

避難生活は、私たちの暮らしにとつてもない変化をもたらしました。村民の皆さまには「よくぞ、ここをがんばって生きてもらったものだ」と感謝の思いで一杯です。でも、これまでにない経験によって違った考え方も出来るようになったという点も、1つ2つあるような気がしています。

その1つに、避難当時、「避難してみても、今までの生活がいかにありがたかったかが分かった」という声を多くの人から聞いたところ。そこで村は、平成30年に、3月11日を「あたりまえをありがとう日」という日（制定することになりました。このような思いを村民はもちろん、村外の方にひとりでも多く知ってもらえればという点で当日の県内2紙へ新聞広告を出しました。こんな内容で。

原発事故による避難を経験して私たちが「あたりまえ」と思っていた日々の暮らしが何よりも大切なものだったと気づくことができました。あたたかなご飯を食べられること、畑の採りたて野菜が味わえること、家のお風呂にゆったり浸かれること、家族と一緒に笑っていられること、あたりまえと思っていた毎日はたくさんの尊い営みや思いやりや愛情で大切に つむがれていたのだと

飯館村は3月11日を「あたりまえをありがとう日」と制定します。あたりまえの日常への感謝を忘れないために、あたりまえの本当の意味を未来に伝えたいから

この広告、福島民報広告賞のモノクロ部門で金賞を受賞してしまいました。3月11日が、もうすぐやってきます。「あたりまえがありがたかった」という全国の声を知りたいと思つています。きっと、いろんな方々の「ありがた話」が出てくることでしょう。皆で楽しみにしていようではありませんか。

平成30年12月28日 飯館村長 菅野 典雄

ひとのうごき

(平成30年11月30日現在)

人口	今月	(前月比)
男	2852人	(+2)
女	2862人	(-2)
計	5714人	(±0)
世帯数	1821戸	(+8)

11月1日～30日までの

◆◆人口動態◆◆

転入	9人
転出	8人
出生	1人
死亡	2人

(住民基本台帳人口)



おくやみ

氏名	年齢	行政区
星 利 男	91	上飯樋
廣 島 ヨシノ	95	深谷
須 田 ナ ツ	95	小宮
大 谷 イサノ	95	上飯樋

ご冥福をお祈り申し上げます

(11月21日から12月14日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

